

< J A グループ福島 営農継続検討プロジェクトの開催 >

- ・ 28 日 10 時より、営農再開に向けた取り組みの方向性や課題を協議するために、J A 中央会と J A 全農県本部の部長クラスによる検討プロジェクトを設置し、第 1 回目の会合を開催した。
- ・ J A 中央会からは震災発生から直近までの取り組みや課題を説明し、J A 全農県本部各部署からは以下のような報告・説明があった。

営農経済：県が発出している農業技術情報を J A へ連絡中。

米穀：種が農家まで届いているかどうか調査中。ただし、浜通りは動けない。種子圃場が損壊しており、被害状況を調査中。被害によっては 24 年産の種が確保できないおそれもある。

畜産：肉の県外出荷はしているが、値が安くなっている。原乳の廃棄（180～200 トン／1 日）について、産廃協会へ取り扱いや費用について問い合わせ中。本宮の子牛せり市場が復旧するが、値がつくか難しい状況。また、20～30km 圏内のせりの扱いをどうするか。20km 圏内の家畜の被害調査、死体の処理をどうすすめるか。

園芸：大型市場に荷が集中し暴落し、残荷が問題になっている。花も卒業式・入学式等のイベント中止で需要がない。出荷制限以外の品目について、量販店は「疑わしきは扱わない」対応。出荷経費を差し引いて赤字になるものは出荷しないよう指導している。

生産資材：肥料メーカーの復旧状況を問い合わせ中。生産ラインが見通せないため、代替品を検討中。配送が滞っており、J A に自己取り対応をお願いしている。農機メーカーの在庫、部品供給に懸念がある。

燃料：先週は日常に比べ 3 割程度の復旧だったが、今は好転し 5 割から 6 割に戻ってきた。デリバリーに問題はあるが、今週中にはある程度回復するだろう。L P ガスの方が深刻。ガス充填所を再委託、再々委託しながら対応しているが、ポンペが足りないなど問題多い。

< 市況、燃油の状況等 >

- ・ 行政によるモニタリング調査の開示により、きゅうりで値がつくようになった。1 ケース 200 円位から 500 円位まで上がっている。ただし、他産地は 1,000 円なので風評被害の影響が続いている。
- ・ ガソリンについて、日量ベースで通常時の 5～6 割まで回復している。本日あたりから、郡山地区は G S に車が並んでいない。